

# ABC of 臨床推論

診断エラーを回避する



contents

原書の序	Nicola Cooper, John Frain	3
監訳のことば	宮田靖志	5

## Chapter 1 臨床推論：その全体像 12

Nicola Cooper, John Frain

<b>1</b> はじめに	12
<b>2</b> 臨床推論とは	13
<b>3</b> なぜ臨床推論が重要なのか	14
<b>4</b> 病歴と診察	16
<b>5</b> 確率と診断的検査	16
<b>6</b> 臨床家もまた人である	18
<b>7</b> 臨床推論は患者にとって重要である	19
<b>8</b> まとめ	21

## Chapter 2 エビデンスに基づいた病歴と身体診察 22

Steven McGee, John Frain

<b>1</b> はじめに	22
<b>2</b> エビデンスに基づいた病歴	23
<b>3</b> 自然経過と患者背景	25
<b>4</b> エビデンスに基づいた身体診察	26
<b>5</b> 尤度比を使う	27
<b>6</b> エビデンスに基づいた病歴と身体診察の限界	27
<b>7</b> 事例：安定型冠動脈疾患を診断する	29
<b>8</b> 臨床所見を組み合わせる	31
<b>9</b> 結論	31

## Chapter3 診断検査の利用と解釈 ..... 33

Nicola Cooper

1 はじめに	33
2 正常値	34
3 検査結果に影響する疾患以外の要因	35
4 検査特性	35
5 感度と特異度	36
6 集団における病気の有病率	39
7 閾値	42
8 まとめ	43

## Chapter4 臨床推論のモデル ..... 44

Martin Hughes, Graham Nimmo

1 はじめに	44
2 演繹的推論 (deductive reasoning)	45
3 仮説演繹法 (hypothetico-deductive reasoning)	46
4 帰納的推論 (inductive reasoning)	47
5 仮説的推論 (abductive reasoning)	47
6 規則に基づく推論／分類による推論／決定論的推論 (rule-based / categorical / deterministic reasoning)	48
7 確率的推論 (probabilistic reasoning)	48
8 因果推論 (causal reasoning)	49
9 診断～仮説の生成と修正	49
10 Type 1 および Type 2 思考～デュアルプロセスセオリー	50
11 診断プロセスのエラー	52
12 熟練者と初学者の推論	54
13 まとめ	54

## Chapter5 認知バイアス ..... 56

Nicola Cooper

1 はじめに	56
2 症例で考える認知バイアス	57
3 よくみられる認知バイアス	60
4 バイアスはType1 思考だけの問題なのか？	63
5 認知バイアスとエキスパートの直観	64
6 まとめ	66

<b>Chapter 6 ヒューマンファクター</b>	67
Nicola Cooper	
1 はじめに	67
2 医療におけるエラー	69
3 人間のパフォーマンスの限界	70
4 チーム内でのコミュニケーション	75
5 医療に内在するヒューマンファクター	78
6 まとめ	79
<b>Chapter 7 メタ認知と認知バイアス除去</b>	80
Pat Croskerry	
1 はじめに	80
2 「野蛮なる自動化」	81
3 認知バイアス除去	83
4 バイアス除去の全般的課題	87
5 まとめ	90
<b>Chapter 8 ガイドライン、スコア、意思決定支援ツールを利用する</b>	91
Maggie Bartlett, Simon Gay	
1 はじめに	91
2 臨床ガイドライン	92
3 スコアと意思決定支援ツール	93
4 ガイドライン、スコア、意思決定支援ツール使用のピットフォール	95
5 診療に臨床ガイドラインを適用する；患者が意思決定を共有することを援助する	97
6 まとめ	100
<b>Chapter 9 臨床推論の教育</b>	102
Nicola Cooper, Ana L. Da Silva, Sian Powell	
1 はじめに	102
2 らせん型カリキュラム (spiral curriculum)	103
3 臨床推論に関する教育理論	105
4 教育テクニック	109
5 臨床推論における省察	112
6 まとめ	114
<b>推薦書籍・論文・ウェブサイト</b>	115
<b>索引</b>	117